

## 大磯町大磯地区北下町の御札資料からみる信仰範囲

\* 保坂 匠

### 1. はじめに

大磯町郷土資料館(以後「郷土資料館」)は3家から寄贈された多数の御札資料を収蔵している。これらの御札資料は、天井裏の柱に括り付けられていたものや倉庫に仕舞われていたものである。一般的に御札とは、神棚、厨子などに祀られ一年経つと交換され古い御札はドンドヤキなどで焚き上げられる。しかし、焚き上げられずに天井裏などに多量に仕舞われ、火除けなどの効果があると信じられている事例がある。これを幾つかの研究では千枚札と呼んでいる。

千枚札は、四国から北関東まで発見の報告がある。しかし、報告書の様に文字化されることが少なく、どれほどの範囲と密度をもって行なわれていた習俗であるかは定かではない。

大磯町においてはどうかであろうか。昭和63年に行なわれた大磯町民家調査の際に撮影された古民家の天井裏の写真が残されており、この写真の中には天井裏の柱に御札が括り付けられている写真も見られる。この写真から判明している千枚札をもつ家は、生沢と寺坂に1家ずつである。加えて郷土資料館に御札資料が収蔵されている真壁家を合わせた3家は、天井裏の柱に御札を括りつけた千枚札の習俗が行なわれていた事がわかる。また千枚札であるかは不明だが、郷土資料館の収蔵資料には、虫窪地区古正家からも多くの御札資料が寄贈されている。前号で述べた山口家も合わせると大磯町内だけでも5つの家で千枚札の可能性のある事例、千枚札でなかったとしても御札を焚き上げずに仕舞っていた事例が見つかっている。

表.1 発行元寺社と点数

寺社名	所在地	点数	祈願・内容
高来神社	大磯町	28	家内安全
妙大寺	大磯町	13	家内安全、祭星
楊谷寺	大磯町	1	家内安全
吾妻神社	二宮町	3	
川勾神社	二宮町	1	家内安全
大山寺	伊勢原市	76	家内安全、節分会福御守
阿夫利神社	伊勢原市	6	家内安全、御守、属星守護
比々多神社	伊勢原市	13	家内安全、営業繁昌、御守
真田神社	平塚市	11	家内安全、病魔退散
天徳寺	平塚市	14	家内安全、疾病平癒
不明	平塚市須加	1	蟲封
城光院	秦野市	5	商業繁昌、社中安全、家内安全
白笹稲荷	秦野市	8	家内安全、火盗消除
寒川神社	寒川町	6	家内安全
宝寿寺	小田原市	11	家内安全、疾病平癒
吉浜稲荷	湯河原町	1	家内安全、子孫長久
大師堂	湯河原町	1	
最乗寺	南足柄市	98	家内安全、商売繁昌、当病平癒、講中安全
龍口寺	藤沢市	1	
平間寺	川崎市	31	家内安全、災厄消除、延寿
遍照院	横浜市	13	家内安全、商売繁昌、心願成就
富士浅間神社	山梨県富士吉田市	1	家内安全、商売繁昌

(\* 当館学芸員)

さて、この千枚札の習俗は既に失われていることが多く、解き明かすのは非常に困難である。しかし、保管されていた御札を整理し、分析する事で当地の人々がもっていた信仰を理解する助けになってくれる。

『大磯町郷土資料館年報 平成24年度』では大磯町国府本郷地区中丸の山口家旧蔵の御札資料を受領寺社から信仰の範囲を分析し、3つの密度圏に分類し得る可能性を示した。この3つの密度はそれぞれ、近隣寺社であり生活圏とも言える「高密度圏」、周辺地域(県下など)から信仰を集める寺社を含む「中密度圏」、全国的に信仰を集める代参などの講によって詣でる寺社を含む「低密度圏」とした。この3つの密度圏による信仰範囲が普遍的であるか真偽を確かめるためには民俗誌と照らし合わせる必要や他家の千枚札、御札資料からも同じ分類が可能であるかを分析し、その結果を蓄積する必要がある。本稿では郷土資料館に寄贈された御札資料の内、目録化が終わった北下町の真壁家資料を紹介するとともに、同様の分類を行い、データを蓄積、山口家資料との比較を通して3つの信仰範囲の分類法を検証する事を目的とする。

### 2. 真壁家と御札資料

真壁家は大磯町大磯地区の北下町に位置している。北下町は明治期から昭和期にかけては大磯港に程近い漁師町として、そして別荘と関わる商人や職人も居る町であった。真壁家は現在3代目で、文久2年生まれの前代当主真壁時次郎が明治期に畳屋を始め、岩崎家などの別荘の畳も張替えたとのことである。

真壁家の初代と2代目の当主は「道了尊(ドウリュウサン)」の講元をしていた。昔は正月、5月、9月の27日、28

寺社名	所在地	点数	祈願・内容
本宮浅間神社	静岡県富士市	2	
浅間神社奥宮	富士山山頂	2	
久能山東照宮	静岡県静岡市	1	
明治神宮	東京都渋谷区	1	
穴守稲荷	東京都大田区	5	
新勝寺	千葉県成田市	11	家内安全
鹿島神宮	茨城県鹿嶋市	1	
日光東照宮	栃木県日光市	1	
豊川稲荷	愛知県豊川市	1	開運御守
高室院	和歌山県伊都郡	3	新年祈祷
丸山教		25	家内安全、商業繁栄
愛国婦人会		1	
宇賀神社		2	家内安全
御嶽神社		1	
出雲大社		1	
神道京式数院		5	家内安全、商業繁栄
浅間神社		4	
東照宮		1	
八幡神社		2	
妙法稲荷・笠間稲荷		1	
鷲神社		4	開運、家運長久
不明		36	
合計		454	

日に大祭だった。27日に行って、坊に泊まり、28日に拝みに行く。講には下町の人々が加入しおり毎月掛け金を何銭か貯めて、皆で電車に乗って詣でていた。戦前は講が残っていたが、もうやらなくなったとのことである。

真壁家旧蔵の御札資料は、改築の際に天井裏から見つかった。天井の柱に括られていたそうである。この千枚札を行なう理由は伝えられていないが、現当主は「火事を起こさないため、家がうまくいくようにではないか」と考えている。現当主の代にはドンドヤキでお焚き上げるようになっていたため、千枚札については知らなかったようである。

御札の総点数は、454点に上る(内訳は表1参照)。その内、発行寺社が判明している御札は369点である。東は千葉県新勝寺から西は和歌山県高室院までの地域で発行された御札である。中でも特に多いものは98点の南足柄市最乗寺、82点の大山関係(大山寺、阿夫利神社)である。

内容を見ると多くは「家内安全」、「商業繁昌」、「病気平癒」である。「家内安全」、「商業繁昌」に関しては参拝の際に良く祈られる普遍的な願いであろう。一方「病気平癒」は、直面した災い(病気)に対する願いである事から他の祈願内容と分けて考えるべきであろう。「病気平癒」に関する御札は24点、内10点が平塚市天徳寺、4点が平塚市真田神社、5点が小田原市宝寿寺、4点が南足柄市最乗寺、1点が伊勢原市大山寺である。最乗寺と大山寺は大磯や周辺地域において信仰の一大中心地であるため、多様な祈願がされている。一方、天徳寺、真田神社、宝寿寺は真田(佐奈田)与一の伝承が残る寺社で咳に効能があると言われている。これは特定の御利益のある寺社に参っている事例と考えられる。

その他、御札に書かれた内容から判る事として、参拝した時期がある。大山寺や比々多神社の御札には「元旦」と書かれたものが7点と5点、大山寺もしくは阿夫利神社から「節分」と書かれた御札(「節分会福御守」(図.1)とセットになっている)が15点あり、1年の内特定の時期に参拝していた事が窺える。節分の時期に大山に詣でていたことは、『大磯町史 別編 民俗』で「この日(節分)、伊勢原市の大山へ撒きに行く人もいた」とあり、湯河原などでも節分



図.1 「節分」とある箱札とセットの節分会福御守



図.2 最乗寺の御札



図.3 大山寺の御札

に大山へ参拝する事例がある。大磯町だけでなく周辺地域でも広く行なわれていた習俗である。

御札の形態は、約300点が木の枠に紙の御札を入れた箱札の一種である(図.2、3)。その他には紙札が約100点、木の祈禱札などもみられる(「約」としたのは木枠が壊れて中の紙札だけになっている場合などあるため正確な点数は示す事ができないためである)。変わったものでは正月のポストカードがある。頭に鏡餅を載せた牛が描かれており、年賀葉書が普及する以前のものかもしれない。

### 3. 真壁家の御札資料からみる信仰圏

信仰圏の分類は、山口家にて試みた3つの密度圏を用いる。山口家資料の分析において現在の行政単位では明確に分けられないことが示されたため、寺社の密度圏から3つに分類したものである。

なお3つの密度圏を書き入れた地図を作成した。参照していただければ幸いである。

#### ①. 高密度圏

高密度圏は、東を寒川神社、北を大山、西を秦野市城光院とした。高密度圏では各寺社間の距離が5キロメートル以内で構成される範囲を想定していたが、寒川神社や秦野市城光院など地域性があり点数も多いため例外的に高密度圏としている。山口家の分類で行なったものと同様に約20キロメートル圏内となった。

大磯町内では大磯地区の氏神である高来神社28点、真壁家が畳屋として仕事をした日蓮宗の寺院である妙大寺13点、そして妙大寺の資料は星の廻りに関係する星祭の御守である。天台宗楊谷寺1点。二宮町では弟橘媛命の櫛が流れ着いたと伝えられる吾妻神社3点、相模国二宮であり国府祭に参加する川勾神社1点、平塚市では真田与一の伝承が残り、咳に効くと伝えられる真田神社11点と天徳寺14点、寺院名は不明であるが須賀の寺1点、ここからは瘡の虫封の御札が出されている。伊勢原市では関東一円で信仰されている大山の寺社である大山寺85点と阿夫利神社6点、相模国三宮で国府祭に参加する比々多神社13点、秦野市で

は関東三大稲荷として知られ稲荷の小祠などに祀られることが多い白笹稲荷8点、かつて住職が所謂「見る人」で古いような事をしており周辺では見てもらう人が多かったと伝えられる城光院5点。寒川町では相模国一宮であり国府祭に参加する寒川神社6点が挙げられる。

高密度圏の特徴を各寺社の発行数から見ると、5点から20点未満の寺社の多くがこの範囲にある事、そして高密度圏内では大山関係の御札が飛びぬけて多い事が挙げられる。特に5点から20点未満の寺社には真田神社や天徳寺、城光院など特別な効能や理由があり詣でている可能性がある寺社である。大山関係の点数が多いのは大山に対する信仰が厚く、節分や正月などに定期的に詣でていたからである。

## ②. 中密度圏

中密度圏は、北東を明治神宮、西を富士浅間神社、南を湯河原町大師堂といった神奈川を越える範囲である。各寺社間 50 キロメートル圏内で構成する範囲とした。大磯地区からは約 100 キロメートルの範囲となった。

小田原市では佐奈田与一の伝承が残る宝寿寺 11 点、湯河原町では 11 月 10 日農具市が立てられ平塚や秦野の人が来訪していた吉浜稲荷 1 点。湯河原町大師堂 1 点、南足柄市では僧道了が天狗となったと伝えられ「道了尊（ドウリュウサン）」とも呼ばれる曹洞宗最乗寺 98 点、藤沢市では日蓮宗龍口寺 1 点、川崎市では「川崎大師」の名で知られる真言宗平間寺 31 点、横浜市では東国八十八カ所霊場 16 番である真言宗遍照院 13 点、東京都渋谷区の明治神宮 1 点、大田区の穴守稲荷 5 点、富士山に関する神社は 3 社もこの範囲に入る。山梨県富士吉田市富士浅間神社 1 点、静岡県富士市本宮浅間神社 2 点、富士山山頂浅間神社奥宮 2 点である。

中密度圏の特徴は、真壁家が講元をしていた最乗寺や大山寺に次いで 3 番目に点数が多い平間寺を含んでいる点である。これらの寺院は神奈川県を中心とした周辺県でも信仰を集めている。一方で富士山信仰に関する寺社の御札が少ない。これは丸山教の影響であろうか。

## ③. 低密度圏

低密度圏は、北は栃木県日光東照宮、東は千葉県新勝寺、南西は和歌山県高室院となった。

静岡県静岡市では徳川家康を祀る久能山東照宮 1 点、同様に栃木県日光市の日光東照宮 1 点、千葉県成田市では成田山新勝寺 11 点、茨城県鹿嶋市では鹿島神宮 1 点、愛知県豊川市では豊川稲荷 1 点、和歌山県伊都郡では戦国時代から相模国と関係をもつとされる高野山高室院 3 点である。

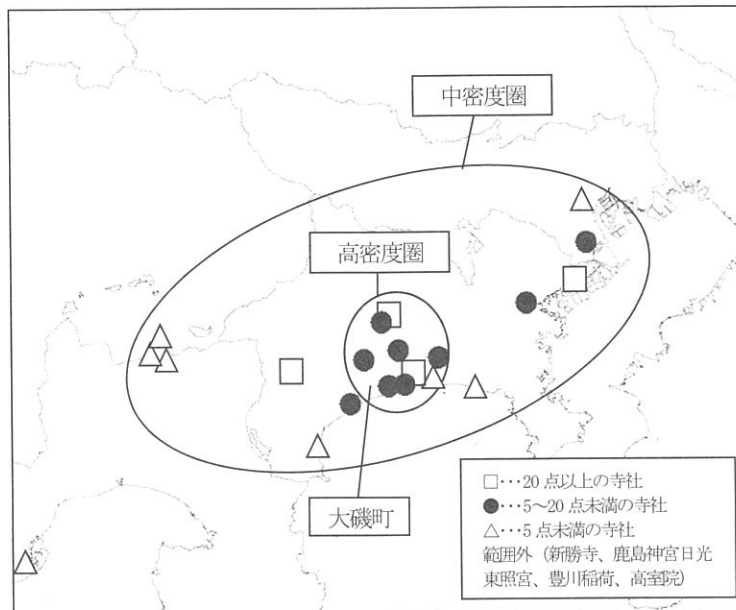
低密度圏の特徴は、新勝寺を除き各寺社とも点数が少ない事が挙げられる。定期的に詣でていた可能性は低く。江戸時代から見られることであるが、観光の土産として買われた可能性がある。一方で新勝寺は、北下町に成田講があったことがわかっており、現在でも老人会で定期的に詣でているそうである。

## ④. その他

明治期に富士山信仰の講から発生した宗教である丸山教 25 点。富士山周辺の神社から受けてきた御札の点数である 5 点と比べると格段に多い。これは御師の衰退と北下町における丸山教の活動が活発に行なわれていた事を物語っている。御師の衰退は御師の名が刷られた御札が見られないことから、富士山だけでなく御師全体に言えることである。

## 4. おわりに

以上 3 つの密度圏は、高密度圏約 20 キロメートル範囲、



地図 神奈川県周辺の社寺密度(テクノコ白地図イラスト: <http://technocco.jp/>)

中密度圏約 100 キロメートル範囲、低密度圏関西から関東であり、山口家の 3 つの密度圏と近いものになった。

しかし、山口家と比較してみると真壁家資料には、御師から頒布された御札が見られないことが判る。これは明治期以降の千枚札の特徴と考えられる。なぜならば、明治期になると明治政府の方針により御師制度は衰退し、生き残っていても先導師などに名前を変えているからである。山口家資料が江戸期の御札である裏付けとも言えるだろう。

密度圏と各寺社の点数を比較した場合、山口家資料では密度が高いほど点数が多い傾向であったが、真壁家資料では数量による変化は顕著ではない。ただし、5 点から 20 点未満の寺社が高密度圏に比較的多くみられた。

全国的に頒布されているはずの伊勢神宮の御札「天照皇大神宮」は、2 家の資料とも見られない結果となった。伊勢参りは江戸期には行なわれており、明治期には毎年氏神の神社から買うようになっているはずである。よって多く確認できると考えていた。現在では神棚に祀る御札としてセットで頒布されており、必然的に毎年交換しているものである。伊勢神宮の御札が見られないのは、残す御札の選択が行なわれた形跡と考える事も可能であろう。今後も同様の分析結果を蓄積していく事で、御札、千枚札、信仰範囲などへの理解を深める必要がある。

最後にお忙しい中貴重なお話をお聞かせいただいた真壁氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

## 参考文献

- ・大磯町『大磯町史 8 別編 民俗』、2003 年。
- ・大磯町『大磯町史民俗調査報告書五 大磯の民俗(二) 大磯・東町・高麗地区一』、1998 年。
- ・西海賢二『湯河原の民俗』、『湯河原町史研究 1』湯河原町、1983 年。
- ・保坂匠「大磯町国府本郷地区山口家の御札資料からみる信仰範囲」、『年報 平成 24 年度』大磯町郷土資料館、2014 年。